



巻頭言

謹賀新年

塾長 釜中 明

新年おめでとうございます。本年は申年です。故郷の桜井に国内最大の文殊菩薩(国宝)がある安倍文殊院では、干支の申をパンジーの花で描いたジャンボ花絵が描かれている。申は「勝る」「魔が去る」と表すとされ縁起が良い年としている。ご家族皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

社団法人に改組

平成 25 年、いい家塾は創立満 10 周年を期して、一般社団法人に改組した。任意の NPO から法人化し、より社会貢献と責任を心新たにしたので。

昨年 12 月に杉澤邸が竣工した。17 期生だったご夫妻は 10 回の講座を全出席された。いつも一番前の席で熱心に受講して下さいました。

こんな思い出がある。第 4 講終了後、家づくりの計画をお聞きした。間もなくしてお母様と 3 人でいい家塾の本部に来所された。2 世帯 3 世代の住む「いい家」を造りたい。1 年近く毎週土曜日に、多くのハウスメーカーや展示会場を廻ってきた。受講を通していい家塾の方針や「いい家」の実態が分り共鳴したので家づくりの相談に来た。「ついでは、一つだけ確認したいことがある。200 年住める家を造りたいが、お互いこの世にいない。将来のメンテナンスや責任の所在はどうなるのか?」と医学博士らしい質問をされた。

私は「個人の命は有限です。しかし法人の命は無限です」とお答えした。私たち関与者は、法人格の責任において長期間責務を全うするのは当然だと考えているからです。

杉澤さんは「失礼しました。よく解りました」と納得して下さいました。私は委託者と受託者間で一番大切なことは「信頼に対して信頼でお応えする」という「信頼関係の構築」が全てだと考えています。私は全棟の棟木に施主と関与者を記した棟札を書いてきた。これは誇りと覚悟の証明として実行してきたのです。

<事例> 14 期生の林寺さんのご主人は、お寺の副住職で庫裏を造る依頼があった時でした。家塾本部にお母様であるご住職の奥様も来て頂いて、担当するサポーターを紹介し顔合わせを行いました。設計・監理は吉田公彦さん、建築施工は(株)岩鶴工務店が担当します。

現在の本堂と庫裏は昭和 44 年に建てた鉄筋コンクリート造。その古い図面を紐解いている時ドラマが起こりました。施工したのが何と岩鶴工務店だったのです。全くの偶然でしたが、全員、驚きと仏縁に感銘した気持ちになりました。

岩鶴さんは、お父さんでもある先代社長が、問題なく仕事をしてくれていることを祈ったと述懐していました。しかし、現在まで何の問題も無いそうです。

「同じ岩鶴工務店なら安心です」と云って頂きました。次代の住職の庫裏を 2 代目の匠が造りました。流石、いい家塾の理事である同志と乾杯したのはいうまでもありません。

昨年のトピックス

(1) 広域に進展

- 1) 竣工 : ①3 月 16 期 U 邸東京世田谷区 ②3 月 16 期 O 邸吹田市 ③12 月 17 期 S 邸伊丹市 ④12 月 17 期 Y 邸小豆島
 - 2) 上棟 : ⑤11 月 16 期 S 邸福山市 ⑥11 月 18 期 M 邸篠山市。
- 特筆すべき画期的なことは、従来の大阪府近辺に限っていた受託地域が上記のように広域に広がったことです。

(2) 著書の出版関係

- 1) 1 昨年末第 2 弾「いい家塾の家づくり」後悔しない家づくりの教科書 II を出版した。サブタイトルは「いい家」とは何か? この答えである「夏涼しく冬暖かい健康住宅」にしました。構成は、「問題提起→解決策→成果」を簡潔にまとめました。
- 2) 新刊著書が、2 月公益社団法人「日本図書館協会選定図書」工学・技術部門に選ばれた。類書との差別化が評価されたと喜びました。是非、お役立て頂ければ嬉しいです。(4 ページ参照)

3) 一般社団法人「日本ペンクラブ」会員に登録。

1921 年イギリスで誕生した PEN クラブ。現在、世界 100 を超える国が加盟する国際ペンクラブに発展してきた。日本ペンクラブは昭和 10 年に創立、昨年創立 80 周年を迎えた。初代会長は島崎藤村、2 代正宗白鳥、3 代志賀直哉、4 代川端康成と続き現在 16 代浅田次郎会長に引継がれてきた。会員として「善文を書き悪文で恥をかかない」と、心したい。

「いい家塾」理事の面々



前列左から吉田公彦、山本啓二、釜中明、木津田秀雄
後列左から井上直大、山田哲也、岩鶴祥司、釜中悠至

ふたつの城下町で「いい家づくり」がスタートしました

サポーター アトリエ2馬力 代表 一級建築士 吉田公彦

サポーター NaO.Design&Partners 代表 一級建築士 井上直大

大阪市に本拠地があり、大阪を中心に講座や活動を行なっているいい家塾にとっては珍しい広島県での家造りがスタートし、昨年11月17日に棟上げの運びとなりました。

当日はあいにく朝から雨でしたが、施工担当の有限会社イケダホームの皆さんが前日から段取りして非常にチームワーク良く作業を進め、午前中にはほぼ棟が上がるところまでこぎつけました。

雨対策のブルーシートを掛けるまで出来たところで、早めの時間帯に上棟式に移りました。「剛床」にしたお陰で祭壇を二階に設え、Sさん一家のご主人、奥様、保育園児のお嬢ちゃん、ご主人のお母様はじめ、全員がはしごを登っての式となりました。いい家塾塾長名代の釜中悠至さんが塾長筆の「棟札」をお持ちして、これも祭壇に飾って皆さんと祈りを新たにしました。



兵庫県の丹波篠山上棟式を終えた18期生Mさんのお住まいです。篠山といえば現在も篠山城跡を中心に武家屋敷や町家など古くからの街並みがいたる所に残るすばらしい城下町です。そして丹波の黒豆、栗、猪鍋など美味の里としても全国的に有名な地域で、この篠山の街並みに惚れ込み、大阪からの移住を決意されスタートした計画です。

Mさんと初めてお会いした際「篠山の街並みに則した住まい」「昔ながらの縁側があるような住まい」「壁ではなくフスマで仕切られた空間」「床の間のある和室」など純和風の雰囲気を持った住まいにしたいというご要望をお聞きしました。これらのご要望を一つ一つ取り入れながら計画を進めた結果、間仕切壁がほとんどなく部屋の仕切りはフスマや木製建具というようにとても開放的でフレキシブルな可変性のある間取りとなりました。

現在は上棟を終えた段階で、一般的にはこの段階で見えている柱や梁は壁や天井ができあがるにつれて見えなくなってしまいますが、Mさんの住まいに関してはそこかしこに柱や梁が隠れずにそのままあらわれてきます。しかもその梁の高さは30cmを超えているものもあり、とても大きな存在感があります。さらにその大きな梁や小梁を利用した変化のある天井など、木組みの美しさがそのまま仕上げとしてあらわれた空間となっていくます。

上棟式はあいにくの雨となってしまいましたが、四方払いのあと山本博工務店の山本社長の「千歳棟(せんざいとう)～オオ～、萬歳棟(まんざいとう)～オオ～、永々棟(えいえいとう)～オオ～」という掛け声のもと、棟木に見立てた紅白を巻いた木材を木槌で叩く上棟の儀を行い、その後はこの木組みを愛でつつ今後できあがっていく空間に思いを馳せながらの楽しい宴となりました。



現在ではなかなか構造材が仕上材となることが少なく、また集成材ではなく無垢の材料で30cmを超える梁を見かけることもあまりありません。

しかしこのように木材が仕上材として見えることで、構造体としての力強さ、木目による癒やし効果、木材独特の香り、経年変化によ



る空間の深みなど他の材料ではなかなか得ることができない素晴らしさがたくさんあります。木の良さがたくさん詰まった素敵な住まいになることを願いつつ、今春の竣工を目指し工事を進めています。

16期生のSさんは福山市在住ですが、遠く大阪まで講座の受講に通い、全10講皆出席。後日談では仕事のシフトを考えると全て参加できたのは「奇跡に近い」そうです。ご縁が深かったのでしょうか。

出席するだけでなく、熱心に学び、考えることを実践されて、「自分が手に入れたいのはこういう家だ」ということをきちんとと言える人になっておられると感じます。



いい家塾の卒業後、まずは土地探しからのスタートでしたが、インターネットの情報は見るものの、中々良い物件に巡り会えなかったのですが、たまたま福山市にはいろいろなご縁をいただいている私(設計者吉田)が以前に知り合った不動産屋さんにお連れ

したあたりから具体的な動きになり、土地契約、そしてプランスタートとなりました。

シンプル暮らしで決して贅沢をなさないけれど、子どもさんの為の本の質にも気を配るご主人、優しい笑顔で打合せが屋にかかると心のこもった手料理を出してくださる奥様、かわいくて、くったくのないお嬢さんと付き合いながら、厳しい予算の中で優先順位を決め、頭の切り替えを何度も重ねつつ、イケダホームさんの多大な尽力に支えられて、いよいよ

「いい家づくり」の文字通り骨格が見えてきたという感慨ひとしおの一日になりました。これから「いい家づくり」の本番です。



【 いい家の日企画 「鬼に訊け」 上映会&トークセッション 】

サポーター (株) 大ス樹 (だいすき) 代表 山本容子

今年のいい家の日のイベントは11月3日の祝日に開催しました。会場は、協賛会員である大阪ガス様の発祥の地に2015年新設されたハグミュージアムの5階ハグホールをご提供いただきました。正面に大きな調理台があり、たくさんの人にガスを使った調理の実演を見ていただけるように広く、少し不思議な感じのする素敵な空間でした。



1部の上映会では、いい家塾の主催で今まで2回上映会をして好評だった宮大工西岡常一棟梁の「鬼に聞け」を見ていただき、2部のトークセッションでは、パネリストに映画の中にも登場する薬師寺の長老安田暎胤様、西岡棟梁の直弟子の建部清哲様、塾長の釜中に登壇いただきました。

安田長老には1回目の上映会にも来ていただきました。ご高齢にも関わらず遠路お越し下さったことに感謝いたします。ご来場いただいた100名を超える参加者の方々も貴重な経験をされたと思います。コーディネーターはいい家塾でも講師を担当していただいている桶村久美子さんに勤めていただき、私は全体の司会をさせていただきました。



「鬼に訊け」では、1300年前から唯一残る国宝東棟を手掛かりにして、金堂、西塔、大講堂など薬師寺白鳳伽藍を平成の世に再生建立された西岡棟梁の功績が描かれています。西岡棟梁の言葉には忘れそうになっている日本人の心がありました。自分の仕事に責任をもつ、木と真摯に向き合うことなど感銘した棟梁のこぼれ話を三つ引用します。

●棟梁いうものは何かいいましたら、「棟梁は、木のクセを見抜いて、それを適材適所に使う」ことやね。木のクセをうまく組むためには人の心を組まなあきません。

●科学が発達したゆえに、わたらの道具らは逆に悪くなってらるんでは。質より量という経済優先の考え方がいけません。手でものを作りあげていく仕事の者にとっては、量じゃありません。いいもん作らなあ、腕の悪い大工で終わりだろ。飛鳥の時代から一向に世の中進歩してません。

●棟梁の奥さんというのも大事なもんです。よそから預かった子供の面倒見るんですから、親切で、思いやりのある人でないといけません。私にとってこの言葉はこたえました。

そして2部、今回の目玉であるトークセッションもとても印象的でした。コーディネーターの桶村さんはアナウンサーなので声や言葉が聞きやすく、パネリストから話をうまく引き出され、今見た映画の理解がより深まりました。何より時間をかけて下調べをしっかりとされているのが伝わってきました。

安田長老は、(西岡)棟梁は阪神淡路大震災にもびくともしなかつた西塔を見て、千年の命を確信したのか「やっと卒業した」と言い残し、安心して平成7年仏の世界に旅立たれた。薬師寺の終生棟梁です。と語られた。

建部さんは、直弟子に入って間もない時に東塔のデータをコピーしたくて借り入れを申し込んだら了承して下さった。今から思えば何と無茶な願いを受け入れて下さったと、その大きさに感服します。とおっしゃった。

釜中塾長は「木は鉄より強い」「千年の檜には千年の命がある」など名言がたくさんある。弟子には「これは宇陀の檜や。これは吉野の檜やで」と教えたそう。これほどの目利きは神業である。棟梁のことを「神様、仏様、西岡様」と呼んでいる。いい家塾は棟梁の教えを家造りに伝承すべく創立した。と述懐しています。

イベント後、安田長老、建部様、ほかお手伝いいただいた方々と近くのお店で慰労会も出来ました。そのときに桶村さんから「西岡常一棟梁の遺徳を語り継ぐ会」の会員としての活動を始めたこと、薬師寺との深い縁があったことなどをお伺いし、トークセッションが良かったことが腑に落ちました。導かれるような人のご縁の不思議を感じたイベントでした。



事務局からご案内

いい家塾

19期生 募 集

あなたの常識を疑ってみませんか？

後悔しない家造りをするために -----

「いい家」とはこんな家です。私はこんな家に住みたい。と自信をもって言えますか？自然素材を使った健康住宅。大地震にも耐える丈夫な家。まち並みに調和した家など「こんな家がほしい！」と理想の家を明確に答えられるようになるための勉強会です。一級建築士や大工さんを始め、現場で活躍する優秀な職人や各界の有識者が講師となり、どなたでも分かりやすいプログラムを準備しています。

塾長、書き下ろし！！

「いい家」の作り方がわかります！



『いい家塾の家づくり』
後悔しない家づくりの教科書Ⅱ

著者：釜中 明
出版社：JDC出版 定価：1,728円(税込)

日本図書館協会選定図書（工学・技術部門）

講座のねらい

家造りで重要な5つのポイントを自分で決定できるようになる -----

- | | | | | |
|--------------|--------------|---------------|--------------|----------------|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 構造を
何にするか | 工法を
何にするか | 素材は
何をを使うか | 断熱は
どうするか | どこに(誰に)
頼むか |

講座の概要

会 場	高津宮 (大阪府中央区高津1丁目1番29号)
日 時	平成28年2月から11月までの毎月第4日曜日 11:30～17:00
受講料	32,400円(全講分、家族受講者は2人目から半額)
定 員	25名(申し込み順、お早めに)



NO.	月 日	講義内容
1 講	2/28	【入門編】 いい家塾のアイデンティティ/土地の重要性和注意事項
2 講	3/27	【実習編】 民家集落博物館で重文古民家から伝統工法を学ぶ
3 講	4/24	【基礎編】 日本住宅の問題分析と提言/設計の役割と重要性/家造りのポイント
4 講	5/22	【基礎編】 家造りの基礎知識/基礎・土台講座/映画「木霊」/耐震構造
5 講	6/26	【構造編】 構造を比較する/自然素材を活かす/白蟻の実態/シックハウス
6 講	7/24	【構造編】 木造工法の比較/日本住宅の5重苦/価格構成比較
7 講	8/28	【研究編】 居住性能の比較/自立循環型住宅/W発電ゼロエネ
8 講	9/25	【事例研究】 マンション大規模改修/欠陥住宅/ローンと資金計画
9 講	10/23	【専門編】 究極の断熱で音・結露を解決/防犯/畳/襖/色彩講座
10 講	11/27	【実践編】 いい家の条件/夢を描くワークショップ/誰に頼むか/修了式

※ 講義内容は変更する可能性があります。

編集後記

習い事をしたいと夏頃から思っているが中々実行に移せない。日々の生活の慌ただしさにかまけているが、2016年こそはという想いを込め文字にしてみる。候補は棋道(囲碁)、合気道、書道。若年寄りな趣向なのか、「道」を通して自分を見つめ直したい。道がつくものですぐに思い浮かぶひとつに「柔道」がある。日本のお家芸と言われ、世界のJUDOとも言われる。視点を変え「住む」という点ではどうだろうか？現代の日本人の住まい方や家は世界に誇れるだろうか。「住道」の世界に身を置くものとして背筋を伸ばし新年を迎えたい。【編集人】

後悔しない家造りネットワーク 一般社団法人 いい家塾
 発行人：釜中 明 編集人：釜中 悠至
 本部・事務局：大阪市天王寺区生玉寺町 1-13-6F Tel：06(6773)3423 Fax：06(6773)3420
 URL：http://e-iejuku.jp E-mail：info@e-iejuku.jp